

Book List ～沖芸の先生による、今読むべきこの15冊～ Vol.4

冬休み！ 沖縄の民謡と民俗芸能を より深く知るための15冊

選者：久万田晋

沖縄県立芸術大学附属研究所教授
専攻：日本沖縄の民俗音楽学、民俗芸能論



『日本民謡大観 沖繩奄美』 (全4巻)

日本放送出版協会、1989～1993

K/76/N77/

本書は八重山諸島、宮古諸島、沖縄諸島、奄美諸島の各地域に伝承される民謡を収集・五線譜化し、歌詞や歌の背景にも解説を加えた資料集です。ここには各地域300～400曲、計1500曲以上の民謡が収集されています。残念なことに、本書に収集された貴重な歌の多くはすでに伝承が失われ、あるいは変質してしまっています。しかし、何百年という時間をかけて島々で受け継がれてきた膨大な歌謡・民謡群の多様性・豊穡性を深く認識することは、現代沖縄に生きる我々の責務です。このような知的問題意識を持つ人には必携の書です。



『山内盛彬著作集』 (全3巻)

沖縄タイムス社、1993

K/76/Y46/1-3

山内盛彬は、沖縄における古典音楽および民俗音楽研究のパイオニアであり、孤高の業績を成し遂げた人物です。琉球の至宝『おもろさうし』歌唱の採譜記録を作成したことはあまりにも有名です。その他、首里の女性たちのキューナ、聞得大君の就任儀礼「御新下り」の次第やキューナ、路次楽・御座楽等の中国系音楽、首里の木遣歌、京太郎芸能など、いまや伝承が途絶してしまった歌謡・音楽も多数記録しています。現在の民族音楽学的な研究に半世紀以上も先行する、きわめて先駆的で重要な労作といえるでしょう。



本田安次 『南島探訪記』

明善堂書店、1962

K/382/H84/

日本の民俗芸能研究を大成した本田安次による沖縄探訪記録。本田は全国をくまなく巡り、日本各地の民俗芸能について膨大な記録を残しました。1958～59年に沖縄芸能調査旅行を行い、その後ただちに本書を著しました。旅行中の本田が目にあたりにしたのは、大和芸能とは異質な沖縄芸能の相貌でした。芸能にとどまらず、島々の民俗や祭祀を通じて浮かび上がってくる沖縄文化の姿は、本田が民俗芸能研究から導き出した日本文化の体系性からはみ出してしまう世界でした。しかし本書から立ち昇るのは、そのことに対する当惑というよりは、自らの理論体系では理解しがたい事例に遭遇する“愉悦”の感覚です。



金井喜久子
『琉球の民謡』

音楽之友社、1954

沖縄出身の著名な女性作曲家による民謡楽譜集。まだ日本復帰前の重要な著作です。書名を「民謡」としながら、琉球古典音楽もかなり取めているのが興味深いところです。民謡通史と歌詞解説は金城朝永が執筆しています。

K/76/KA44/



上原直彦
『鳥うたの小ぶしの中で』

丹綱巖山房、1995

沖縄で長年民謡番組のラジオ・パーソナリティとして活躍する著者による民謡歌手達との交遊録。各々の歌手の代表曲やエピソードが沖縄口まじりで紹介されています。著者は新民謡の作詞家としても数々のヒット作を生み出しています。

K/76/U36/



仲宗根幸市
『琉球列島 鳥うた紀行』(第一～三集)

新報出版、1997

奄美諸島、沖縄本島及び周辺離島、宮古諸島、八重山諸島の代表的な民謡について、歌詞、対訳、背景等が簡潔にまとめられています。なお、『「しまうた」を追いかけて』他、著者が沖縄の民謡文化を探究した書も興味深い内容です。

K/76/N42/1-3



大城學
『沖繩の祭祀と民俗芸能の研究』

砂子屋書房、2003

沖縄各地の民俗芸能が、その背景となる祭祀過程と併せて詳しく描かれています。長年沖縄の民俗芸能の調査記録に携わってきた著者の仕事の集大成となっています。著者による『沖繩芸能史概論』も古典芸能に焦点を当てた良書です。

K/386/O77/



高橋美樹『沖繩ポピュラー音楽史
知名定男の史的研究・楽曲分析を通して』

ひつじ書房、2010

沖縄県立芸術大学に提出された博士論文をもとにした書。いまや沖縄民謡界の最重鎮である知名定男の歌手、作曲家、プロデューサーという多面的な相貌に注目しています。そして音楽学的分析によって現代沖縄民謡創作の秘密を鋭く描き出します。

K/76/TA33/



小浜司
『島唄を歩く』(1・2)

琉球新報社、2014

戦後沖縄で活躍してきた民謡歌手 46 人を取り上げ、各々の略歴、代表曲、インタビュー等を交えて紹介しています。著者は1970年代以降、沖縄の民謡界で解説者、制作者として幅広く活躍しており、相当マニアックな話題にも触れています。

K/76/KO27/1,2



杉本信夫
『沖繩の民謡』

新日本出版社、1974

作曲家であり、民謡研究家でもある著者が、日本復帰直後の沖縄をくまなく歩き巡って編んだ労作です。著者は沖縄出身ではありませんが、わらべうたを含めた選曲や解説の端々に、著者長年の沖縄に対する思いがあふれています。

K/76/SU38/



『やんばるの祭りと神歌』

名護市教育委員会、1997

本書は名護市の発行ですが、北部地域全域の祭祀過程や歌謡が網羅的に記述され、さらに近現代における祭祀プロセスの変遷が細かく検討されています。「やんばる」(沖縄本島北部)の祭祀や民俗芸能に関心をよせる人には必読の書です。

K/21.01/N26/15



『エイサー 360度 歴史と現在』

那覇出版社、1998

現代沖縄の民族アイデンティティーを力強く表出するエイサーの多様な姿に迫った書。エイサーの歴史、分類、現代的展開に続き、沖縄本島各地、離島地域、日本本土、海外にまで視野を広げ、世界に広がるエイサー文化の総体を描き出しています。

K/386/O52/



金城厚
『沖繩音楽入門』

音楽之友社、2006

琉球・沖縄音楽の全領域にかけての通史的説明と、離島地域の歌への配慮が行き届いています。沖縄の音楽・芸能に関心を持つ者にとっての必読書です。さらに、著者による専門的学術書『沖繩音楽の構造』にも挑戦してみましょう。

K/76/KA54/



『奄美民謡総覧』

南方新社、2011

沖縄民謡以上に全国から注目される奄美民謡をレコードとして多数世に出したセントラル楽器による歌詞解説の集大成版。編者に奄美民謡研究の第一人者小川学夫が関わっています。奄美民謡に関心をもつ人にとっては必携の書です。

K/76/I12/



『沖繩芸能のダイナミズム』

七月社、2020

琉球・沖縄の音楽芸能を対象とした若手、中堅研究者による様々な角度からの論考を集めた最新の論集。各論文は特定の時代、あるいは特定の地域に限定できない横断的な文化事象に注目しています。なお選者も執筆に参加しています。

K/76/Ku32/